

エアフィルターを利用したPRRS対策(IPVS2010 報告)

アメリカの Swine Vet Center(養豚開業クリニック)のダーウィン・リックス氏は、過去5年間のエアフィルターによる陰性持続率(PRRSの再発症を地域感染からどれくらい防げるかという試み)を報告しました。特に積極的に大学と取り組んできたこの養豚クリニックは、ミネソタ大学のスコットディー氏らとも連携し、PRRS ウィルスが近隣地域から侵入しないような効果的なエアフィルターの導入に早くから熱心でした。その効果が広まって、特に種豚の繁殖農場あるいはAIセンターでは、むしろ当たり前のツールになりつつあると話しています。

採用しているのは高機能で高価なHEPAフィルターではなく、3年に一度のフィルター交換を含めて10年間使えて1頭当たりのコストは1ドル~1.5ドルほどのかなり改良されたタイプです。

完全なウィンドウレス豚舎で入気するすべての空気を、エアフィルターを通して取り入れる100%エアフィルター農場と、換気量のより必要な夏場だけはオープン換気をして、それ以外の季節はすべてフィルターを通して入気するパーシャルフィルター農場の2種類があると言います。夏の高温多湿の激しい熱帯性の日本の気候では可能かどうか分かりませんが、その効果をフィルター導入以前の年間確認される PRRS の再発症率(34%の農場が再感染を経験していた)と比べてみたところ、それぞれ4%(100%フィルター)、8%(パーシャルフィルター)と格段に低率だったのです。すなわちそれぞれ 50 農場に対して2~4農場のみが再感染だったという有意な差でした。リックス氏は常々地域感染による PRRS 発症が怖いとして、エアフィルター法が最もコストが安く安定的に利用できる推奨の換気法だとして、特に養豚密度が高い地域で推奨していく方針だそうです。

2010年8月 グローバルピッグファーム(株)